

モンテーニュ

2017 年本試

問 1 モラリストを代表する人物にモンテーニュがいる。彼の思想の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 人間は、「私は何を知っているか」と問い，謙虚に自己吟味を行うことによって，自らに潜んでいる偏見や独断から脱することができる。
- ② 人間は，単に行為するだけにとどまらず，行為の正不正に関する道徳的判断をも下す存在だが，この判断は知性ではなく感情の働きである。
- ③ 人間は，生の悲惨さを自ら癒すことができないために，娯楽や競争などの気晴らしに逃避して，気を紛らわそうとする。
- ④ 人間は，自由意志に従うと「墮落した下等な被造物」にもなり得るため，自由意志の上位に信仰をおくことによって正しき者になる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	29	①	2

2014 年追試

問 1 モンテーニュの著作と思想の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 『法の本質』を著し，客観的な法と主観的な道徳の統一を主張した。
- ② 『法の本質』を著し，三権分立を唱えて当時の絶対王政を批判した。
- ③ 『エッセー』を著し，自由意志に基づく人間の尊厳を強調した。
- ④ 『エッセー』を著し，自己吟味に基づく内省的な生き方を説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	29	④	2

2011 年本試

問 4 ユグノー戦争に関して，この宗教的抗争を回避するために努力したモンテーニュの思想の説明として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

26

- ① 大きな宇宙は空間によって人間を包み，一つの点のように飲み込む。しかし，考えることによって，人間は宇宙を包む。そこに人間の偉大さがある。
- ② 人間の理性は不完全であり，絶対的真理を認識することはできない。人間は常に独断を差し控え，謙虚な態度で真理の探究を深めるべきである。
- ③ 一切のことを疑ったうえでもなお疑い得ないのは，そのように疑っている自我が存在していることであり，この自我の存在が哲学の基本原則である。
- ④ 現にいかにかに生きているかということと，いかにかに生きるべきかということとはかけ離れているから，現実を顧みない者は身の破滅を招くことになる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	26	②	3

2009 年追試

問 5 モンテーニュが「ク・セ・ジュ」の言葉を用いる際の意味内容として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 27

- ① 私は何を知ることができるのか。おそらく私は，幾何学の公理のような普遍的な真理しか知っていないのに違いない。
- ② 私は何を知っているというのか。おそらく私は，何ごとについても確実に知っていないのに違いない。
- ③ 私は何を知っているというのか。私には実生活から得られる無意味な知識しかない以上，何も知らないのに違いない。
- ④ 私は何を知ることができるのか。私は，超自然的な術を習得しなくては，何も確実に知ることができないのに違いない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	27	②	2

2005 年追試

問 2 宗教改革のころから、信仰を批判的に反省する思索が新しく展開されるようになった背景として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

12

- ① 宗教改革によって宗教全体の権威が失墜して、社会全体が価値の無秩序状態に陥った結果、規範の再構築が求められるようになった。
- ② 宗教改革によって宗教の権威が以前よりも強まった結果、強大化した宗教の専横に対する理性的な批判が必要になった。
- ③ 宗教改革以後、各地で宗教戦争が起きた結果、そうした惨禍をもたらす宗教のあり方に対して冷静な批判が必要になった。
- ④ 宗教改革以後、ヨーロッパからのプロテスタントの徹底した排除が進み、プロテスタントの哲学者たちが寛容を要求せざるをえなくなった。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	12	③	3

2004 年追試

問 3 モンテーニュの説明として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

12

- ① モンテーニュは，ギリシアやローマの賢者たちに倣って，よりよく生きるための方策を求めた。
- ② モンテーニュは，鋭い人間観察に基づいて，人間の生き方を独自の視点から探究した。
- ③ モンテーニュは，神への信仰を否定し，地上の生活に積極的な意義を見いだして，多彩な能力を発揮した。
- ④ モンテーニュは，思想の体系化を図らず，日々の思索を随筆のかたちで丹念につづった。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 3	12	③	3

2002 年本試

問 7 しなやかな魂に関するモンテーニュの次の文章を読み、その趣旨と合致しないものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 20

自分の気分、気質にあまり執着しすぎてはいけない。我々の主要な能力は、様々な習慣に自分を適応させることができるということだ。どうしてもなくある一つの生き方に執着し、束縛されているのは、存在しているだけで、生きていることではない。最も立派な魂とは、最も多様でしなやかな魂なのだ。

(モンテーニュ『エッセー』)

- ① 人間が精神的に成長するためには、自己中心性から抜け出して、自分とは違う他人の観点を理解する必要がある。
- ② 呵^{かつ}藤^{とう}を安易に合理化することは、自分の欲求に囚われていることを意味するものであって、避ける必要がある。
- ③ 自己のアイデンティティを確立し、主体性を獲得するためには、自分の考え方をあくまでも貫き通す必要がある。
- ④ 人生に何を期待できるかということを考えるのではなく、人生が何を我々に求めているかを考える必要がある。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 7	20	③	4